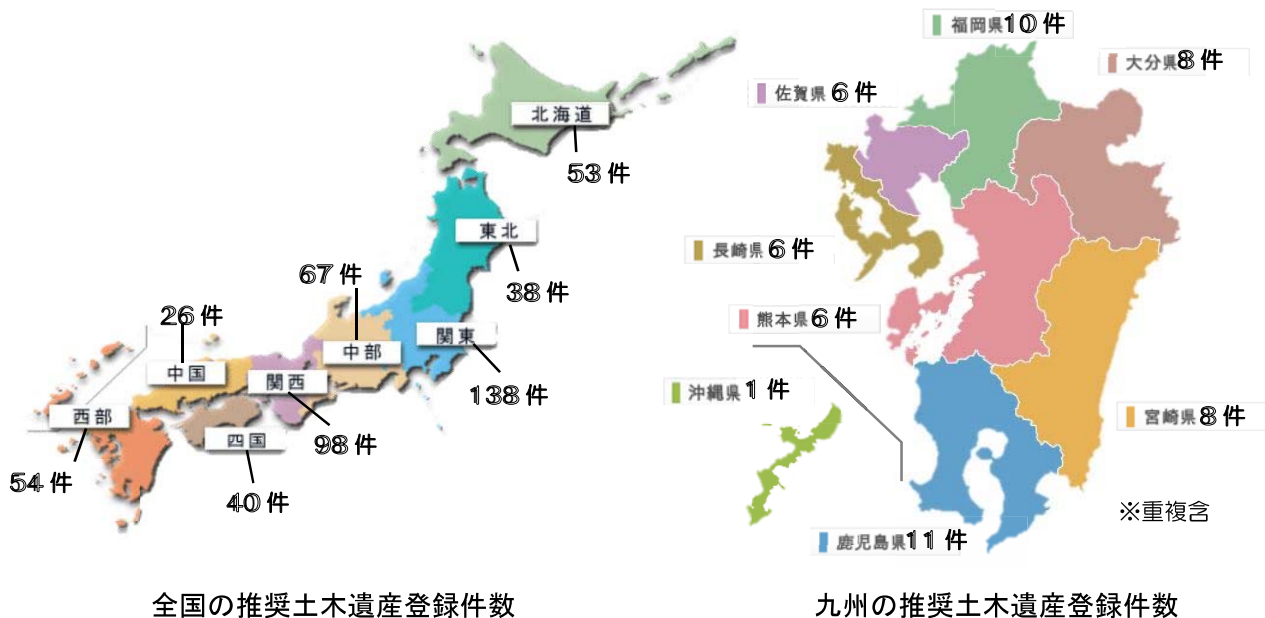


「旅ノート」コンテスト

1. 土木遺産について

土木学会は、明治時代から昭和の初期に造られた土木施設のうち、現存しているものを近代土木遺産と定義し、全国調査を行った結果、全国で約 2,800 件、九州で約 500 件が確認された。

土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として平成 12 年度に創設された土木学会選奨土木遺産認定制度で認定した選奨土木遺産は 23 年間で累計 517 件となった。「選奨土木遺産」とは、全国に多数ある近代土木遺産の中から選出された貴重な先人達の遺産であり、今後とも良好な保存状態を維持すれば年を重ねる度にその価値を増し、将来、国の重要文化財として指定される可能性のある、かけがえのない国家的財産である。



2. 土木遺産の魅力

生活の豊かさを得たいという夢をかなえるために、先人たちの技術や知恵を結集し構築された土木遺産。

誰もが知っている有名な土木遺産もあるが、わたしたちの日常生活の中に溶け込んでいて気が付きにくいものも多くある。また、土木遺産がそこに存在するに至るまでにはどのような背景があり、どのような役割を果たしているかを考えてみると土木遺産そのものの魅力や地域の魅力に気付くことができる。しかし、その魅力に気付くきっかけになかなか出会えないのが現状ではないだろうか。

「そもそも土木ってなに?」、「土木遺産って難しそう・・・」と感じている人にとっては、何気ない普段の生活も、土木遺産という新たな視点を通して見ることによって、いつもと違って見えてくる。また、過去・現在・未来に土木構造物や土木に関わる方々にとっては先人たちの足跡をたどることで、土木の魅力や魅力を再認識し、これからの未来が見えてくるきっかけになる。

土木の魅力は最新技術
だけではない！！



土木になじみがない私にとって「なにが土木遺産なんだろう・・・」という印象であったが、利用していた西鉄貝塚線から見える名島橋が土木遺産だということを知り親近感がわいた。なんと、西鉄電車が走る名島川橋梁も土木遺産であった。さらに、橋の大きさやヨーロッパ風のデザイン、白く輝く御影石の美しさから新しいと思っていた名島橋が昭和8年に完成しているという事実に驚いた。興味を持ってみると、名島橋を保つため美化清掃を続けている地元の方々の存在や、軍用道路説や代用飛行場説といった建設目的の謎など、多くの魅力にあふれた土木遺産であることが分かった。名島橋が土木遺産であることが分かってからの新たな発見として、クリスマスの時期に親柱がサンタの衣装を着ることに気付いた。さらに、コロナ禍にはマスクもつけていた。親柱サンタを見ることが毎年の楽しみとなっている。もちろん通るたびに周囲の人に紹介している。



名島橋



名島川橋梁
(大正12年完成)

「私の地域にはなにもない。」という声を耳にすることがあるが、土木遺産という視点で改めて地域を見ると、人に教えたいような新たな魅力を見つけることができるのではないだろうか。

3. 土木遺産を通じた物語「旅ノート」コンテスト

なぜそこに土木遺産が存在するのかをひも解くと、その地域や生活する人に必要だった理由がありそれぞれの土木遺産がもつ歴史と物語がある。また、土木遺産そのものの歴史だけではなく、その土地に住む人の経験や物語は、土木遺産や地域の魅力を伝える大切な要素である。

発見した新たな魅力はきっと、人に教えたい。そこで、私なりの土木遺産な旅のルートをつくってみるに紹介したい。発見と思い出を書き留め、伝える「旅ノート」を作成して、自分なりの形で地域の人やその地を訪れた人と共有したい。「旅ノート」には、地図、写真、作者だけが知るエピソード、個人的おすすめポイントや旅をつくって気付いたことなどを記載する。

九州各地の老若男女が作成した「旅ノート」を通じて九州の土木遺産が造られた時代や旅をつくった人の思い出の時間へタイムトラベルし、調べるだけではわからない地域の魅力を感じることができる。「旅ノート」を目にすると、現地に行って実際に確かめてみたくなるはず。実際に訪れた人が感想や質問などを自由に言い合える場があればもっと楽しくなると思う。

皆さんがつくった九州各地の「旅ノート」を持ち寄って、土木の専門家の解説を交えつつ、地域の魅力や思い出話を聞くことができれば盛り上がること間違いなし！

<参考・引用>

公益社団法人土木学会 土木学会選奨土木遺産

<https://www.jsce.or.jp/contents/isan/index.html>

公益社団法人土木学会西部支部 九州の近代土木遺産

https://www.jsce.or.jp/branch/seibu/05_heritage/index.html